

新しい総合防災マップで防災力をパワーアップ

2月に岡垣町総合防災マップを改定し、各世帯に配布しました。今回の特集では、総合防災マップの改定内容や活用方法を紹介しながら災害への備えについて考えます。

問い合わせ 地域づくり課



①②平成30年7月豪雨で被害を受けた町の様子③災害時相互応援協定を結んでいる石川県津幡町の令和6年能登半島地震による被害の様子



雨が長く季節が近づいてきまなした。これまで大きな災害のない岡垣町でも、この時期は崖崩れや道路の冠水などの被害が発生します。特に昨年は、浸水で孤立した住民が消防に救助されたり、崖崩れの危険が高まった施設の居住者が福祉避難所へ避難したりする事例がありました。近年は、地球温暖化の影響もあり、災害は激甚化の傾向にあります。災害はいつ、どこで起こるか分かりません。この機会に災害への備えを万全なものにしましょう。

できていますが
災害への備え

知っておこう、災害への備え

災害への備えというと、非常用持ち出し品や備蓄品の準備を思い浮かべる人が多いと思います。しかし、これらの準備だけでは、災害への備えは十分とはいえません。



災害への備えはこの他にも…

特性を知る

洪水や土砂崩れなど、災害の特性を知る

時期・タイミングを知る

発生しやすい時期、気象情報や避難のタイミングなどを知る

逃げる方法などを確認する

避難する方法や避難ルート、避難生活を調べる

場所を知る

災害が起こりやすい危険な場所を知る

これらの備えを簡単に確認し、あらゆる災害に備えるため

総合防災マップを
活用しよう

総合防災マップの使い方を紹介!



(桃色)



特集

新しい総合防災マップで 防災力をパワーアップ



STEP 1

総合防災マップを

見てみよう

◀見たら
チェック✓

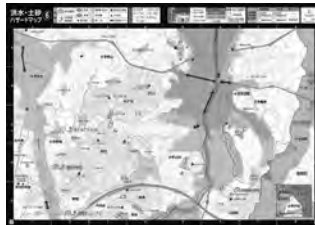
総合防災マップとは

災害に関する情報を提供し、事前の備えに役立ててもらうことを目的に作成したもので、災害発生時の危険性が高い場所や避難所などの防災関係施設の位置、日頃から備える防災対策や災害発生時の恐れが高まったときに心掛けることなどが掲載されています。

こんなことが分かります

地図のページ

- 洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域などの災害が起こりやすい場所
- 過去の事例に基づく冠水注意箇所や早期立ち退き避難が必要な河岸侵食の恐れがある場所
- 指定避難所や指定緊急避難場所などの情報



解説のページ

- 非常用持ち出し品・備蓄品などに関する情報
- 防災情報の入手方法
- 洪水、土砂災害などに関する基礎知識



さらに充実! **ここ**が変わった総合防災マップ



CHECK 1

新たな洪水浸水想定区域を掲載



- 令和4年5月に福岡県から公表された新たな洪水浸水想定区域(汐入川、篠間川、野間川、戸切川)を掲載

CHECK 2

分かりやすくなった避難のタイミング



- 町や気象庁が発表する情報と住民がとるべき行動なども分かりやすく整理

CHECK 3

新たな内容を追加



- 「避難所での過ごし方」や「住まいが被害を受けたとき最初にする事」など実際に災害が起きたときに確認する内容を追加

CHECK 4

サイズ、紙質を変更



- 持ち運びに便利な A 4 サイズ、そして避難経路などを書き込みやすい紙質に変更

STEP 2

総合防災マップを見て

考えよう

◀避難経路
を考えたら
チェック✓

総合防災マップには、災害が起きたとき取るべき行動を示した「避難行動判定フロー」、台風が発生してから川の水があふれるまでの間に「いつ」「何をするのか」を整理するための「マイタイムライン」など、いざという時に役立つ情報が掲載されています。災害が起きたとき、どうすべきかシミュレーションしてみましょう。



CHECK 1 自宅を中心に地図を確認しましょう

総合防災マップには、洪水・土砂ハザードマップ（マップ P22～43）やため池ハザードマップ（マップ P44～51）、高潮・津波・地震ハザードマップ（マップ P52～55）が掲載されています。皆さんの自宅周辺をそれぞれのハザードマップで確認しましょう。町内には、複数のハザード（災害が起こりやすいところ）が重なるところもあります。

【確認ポイント】

- 自宅周辺の洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域など
- 避難所の位置
- 避難所への経路と危険箇所



▲洪水・土砂ハザードマップには、河川が氾濫したときの浸水範囲やその深さ（浸水深）と土砂災害が発生する恐れのある範囲が記載されています。

CHECK 2 避難先はどこが最適か確認しましょう

洪水・土砂ハザードマップには指定避難所（※1）と指定緊急避難場所（※2）が掲載されています。自治区などの公民館の中には、ハザード内に立地しているケースもあるため、指定避難所である町立公民館などへの避難も考える必要があります。指定避難所と指定緊急避難場所は、地図の中に目立つように掲載されています。

- ※1：災害により自宅に戻れなくなった人が一時的に滞在するための施設
- ※2：災害の危険から命を守るために緊急的に避難する場所

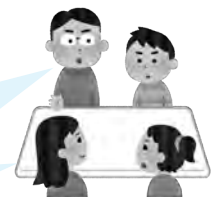


CHECK 3 指定避難所等までの経路を考えましょう

避難経路の途中で危ないところはないでしょうか。最短経路が最も安全とは限りません。災害に応じた経路など、複数の経路を考えてみましょう。

最短経路だけど、川があるね
他の経路も考えてみよう

このルートはどうか？



i 地図はきれいなまま保管する必要はありません。避難経路を書いたり、付箋を付けたりしてより使いやすい地図にしましょう。また実家や勤務先など、自分がよく行く場所から避難するときなど、視点を変えながら地図を確認してみましょう。



特集

新しい総合防災マップで
防災力をパワーアップ



STEP 3

総合防災マップを持って 実際に歩こう

☐ ←歩いたら
チェック✓



「歩き慣れた道だから大丈夫。」そう思っている、実際に避難経路を歩いてみるとシミュレーションと違うことや新たに気づくことが出てくるかもしれません。

例えば・・・

思っていたより崖が高く、川幅が広い

坂道が急で段差も大きい

誰かの助けがないと避難が難しい

気候が良く梅雨入り前の今、実際に歩いて避難経路を確認しましょう。歩いて分かったことや気づいたことを総合防災マップに書いたり、安心・安全だと思う避難経路を改めて探したりしましょう。

パソコンやスマートフォンで便利に使える
WEB版
総合防災マップ



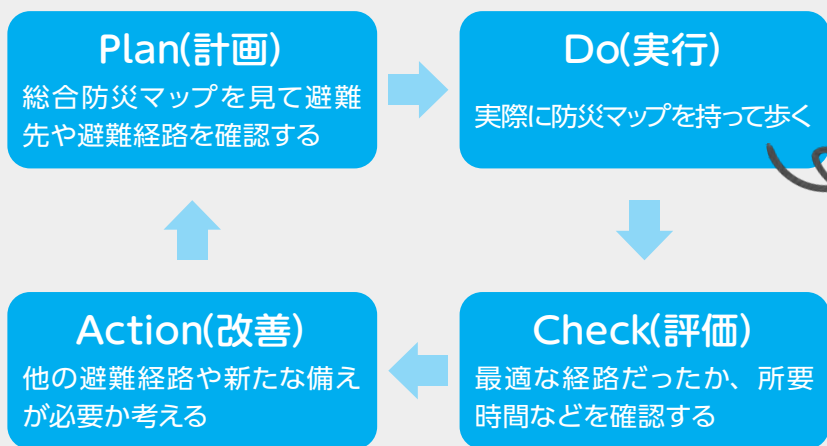
大きな災害が起きたときにすぐに公助（消防や警察、行政などが行う公的支援）が行き届かないことがあります。実際に令和6年能登半島地震では数日間にわたり孤立した地域もありました。そのとき、自分の命を守るために自助（自分の命を自分で守ること）が大切であり、総合防災マップの内容を知ることが自助の第一歩になります。また、地域で避難時の支援などの話し合いや訓練を重ね共助（地域で協力して互いの命を守ること）を高めることも大切です。

町では、総合防災マップの作成・配布だけでなく、総合防災マップの見方・活用方法を学べる出前講座や地域の防災訓練へのアドバイスなども行っています。

自分の、そして大切な人の命を守るために、まずは新しくなった総合防災マップを手にとってみましょう。総合防災マップは各世帯に配布しているほか、手元がない人は地域づくり課、中央・東部・西部公民館で配布しています。また、WEB版でもどこでも見るができます。

日頃から、家庭で、地域で備えよう

Check 防災のPDCA サイクル



地域の防災訓練や出前講座などにも参加してみませんか

